

平成29年度「若手教員等研究支援費（若手教員等支援枠）」研究成果報告書

研究課題	小・中学校における本人・保護者への障害受容・障害理解を支援するための教師・支援者の方略に関する定性的研究		
氏名	村山 拓	所属	職名
		総合教育科学系 特別ニーズ教育分野	准教授
CITI Japan 研究倫理 e-ラーニングプログラムの受講 <input checked="" type="checkbox"/> ←受講済の場合はチェックをすること			
<p>【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)</p> <p>本研究では、標記の課題に取り組むために、主として二種類のアプローチに基づいて検討を行った。研究計画で示した、協力の内諾を得ている2機関において、当事者の障害特性等が異なるため、それぞれ別のアプローチによって検討を進めることとした。</p> <p>一点目のアプローチとして、保護者の障害受容のプロセス等について調べるために、白井彩佳（C類卒業生）の調査協力を得て、障害児を育てた母親への半構造化面接を実施した。本調査においては、母親8名について、研究協力者の同意とともに、本学研究倫理委員会の倫理審査を受けた上で、面接調査を実施した。面接調査によって得られた談話データについては、サトウら（2006）の複線経路・等至性モデル（Trajectory Equifinality Model）を用いて分析を行った。特に本調査が障害受容という時間軸を捨象せずに扱うことを求められること、また、障害受容の時期が異なり、そのプロセスに注目する必要があることから、この分析方法が適切と判断した。</p> <p>分析の結果、障害受容の促進要因として様々なものが挙げられたが、就学や学籍変更が大きな契機の一つとして作用していることが改めて確認された。特にこれらの契機において、特別支援教育コーディネーターや担任教師（小・中学校の特別支援学級や通級利用教室の担任教員も含む）による情報提供、情報開示や進路選択に際しての助言、障害者手帳取得のための手続き的助言等の支援方略を、利用者側の語りからも確認することができた。また、特に通常学級から特別支援学級への転籍を経験している協力者からも、同様の回答を得ることが出来た。</p> <p>二点目のアプローチとして、障害・疾患による長期入院を経験した子どもの復学後の担任教師の支援方略について調べるために、寺尾啓（C類卒業生）の調査協力を得て、小児がん経験者への半構造化面接を行った。本調査においては、小児がん経験者8名について、研究協力者の同意とともに、本学研究倫理委員会の倫理審査を受けた上で、面接調査を実施した。分析に際して、インタビュー・データは先行研究との比較検討作業を行うことを念頭に、先行研究に倣い、KJ法をもとにした分類を採用し、コードとラベルを付与する形で、内容の検討を行った。</p> <p>分析の結果、復学後に学校や担任教師から受けた支援については様々なものが挙げられたが、担任に対する肯定的感情に関するカテゴリーで、特別扱いしない普通の生活を学級で送れることや、定期的な通院に対する理解や学習空白のサポート、体育等、特定の配慮が必要な場面での支援などの内容が抽出された。</p> <p>本研究で実施した二つの調査は、いずれも障害のある子どもや保護者の談話から、担任教師の指導や支援の方略を明らかにするものである。これは、担任教師や学校に対して、実践している指導・支援内容を調査するのとは異なり、担任教師の指導・支援方略が、どのような形で当事者に届いたかを探る上で有効なアプローチたりえたと考えられる。一方で、担任の障害や疾患に対する理解の程度や、特別支援教育に関する知識や理解とともに、それまでの教職経験の中で醸成された支援の方略やその活用に多くを負っていることも明らかとなった。本研究で実施した調査の協力者（インタビュー対象者）は、その多くが、自らが支援者、担任教師、専門家との出会いに恵まれたと話しており、小・中学校に在籍するすべての要支援児がそのような担任に出会っているわけではないことを浮かび上がらせる結果ともなっている。今回調査を行った担任教師の指導・支援方略を、実践知の形で記述可能なものとしていくことが今後の課題といえる。</p>			
<p>【研究成果発表方法】</p> <p>研究成果の一部を、国際学会にて口頭発表した。</p> <p>T. Murayama (2017) “Meeting the Educational Needs on the Students with Cancer”, International Conference on Humanities and Social Sciences 2017, “IPN Conferences 2017” p.48.</p> <p>また、同発表の内容に加筆修正を加えたものを国際誌に投稿中である。</p> <p>その他の成果は、日本特殊教育学会第56回大会（2018年9月、大阪）にて発表するとともに、関連学術雑誌に投稿する予定である。</p>			

※発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。